

平成 2 5 年行政事業レビューシート（外務省）										
事業名		国際農業研究協議グループ(CGIAR) 拠出金 (任意拠出金)			担当部局庁		国際協力局		作成責任者	
事業開始・終了(予定) 年度		昭和 4 6 年度開始			担当課室		地球規模課題総括課		課長 飯田 慎一	
会計区分		一般会計			政策・施策名		基本目標Ⅶ 分担金・拠出金 具体的施策Ⅶ－3 国際機関を通じた地球規模の諸問題に係る国際貢献			
根拠法令 (具体的な条項も記載)		外務省設置法第4条第3項			関係する計画、通知等		CGIARからの要請			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)		国際的な農林水産業研究に対する長期的かつ組織的支援を通じて、開発途上国における農林水産業を今後も持続させつつ食糧増産、生産性改善を図ることにより住民の福祉向上を図ることを目的としてCGIARは設立されている。このCGIARの傘下の各研究センターにおいて実施されている研究活動の支援を通じて、途上国の貧困削減、持続可能な開発に貢献することを目的とする。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)		CGIAR傘下の15の各研究センターは、各国の農業研究機関、民間セクター、NGO等と協力して途上国の経済発展・福祉向上のための農業(林業、水産業を含む)研究を実施している。具体的には、それぞれの研究センターが研究対象とする農作物の品種の遺伝資源を保存・評価し、各国の気候や貧困層の栄養、貿易等の観点から適正な品種を開発し、各国に提供しているほか、病虫害対策、農地の保全など天然資源の管理や保全、政策形成のためのデータ分析提供、開発途上国の専門家養成のための研修を実施しており、これらの事業や各研究センターの運営経費等にCGIAR基金を通じて拠出を実施。								
実施方法		□直接実施 □委託・請負 □補助 □負担 □交付 □貸付 ■その他								
予算額・執行額 (単位:百万円)				22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求		
		予算 の 状 況	当初予算	442	356	291	295	295		
			補正予算	-	-	729				
			繰越し等	-	-	-				
		計		442	356	1020	295	295		
		執行額		442	356	1020				
		執行率 (%)		100%	100%	100%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)		成果指標				単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
		収集した遺伝資源(種子)の特性を評価し、これらを掛け合わせて新品種(高生産性・耐干ばつ・耐病害虫性等)を開発している。新しい知見は論文として公表しており、論文の公表数を成果指標とする。			成果実績	本数	1,753	2,511	1276 ※	2000
					達成度	%	88	125	64 ※	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)		活動指標				単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
		野生種を含めた遺伝資源(種子)を継続的に収集・保管しており、遺伝資源保有数を活動指標とする。			活動実績 (当初見込み)	品種数	746,611 ()	751,717 ()	759,207 ()	760,000 ()
単位当たりコスト		683千ドル／1論文			算出根拠	872,000千ドル(平成24年度CGIAR全体予算額)／1,276(論文公表数) ＝683千ドル ※平成24年度から論文数のカウント方法が変更されている。				
平成 2 5 ・ 2 6 年度 予算内訳	費 目		25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由					
	国際農業研究協議グループ(CGIAR)拠出金		295	295	国際農業研究協議グループ(CGIAR)拠出金に関しては、「新しい日本のための優先課題推進枠」295(百万)					
計		295	295							

事業所管部局による点検						
	項 目			評 価	評価に関する説明	
国 必 費 投 入 の 性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。			○	CGIARの活動は我が国が支援している農業分野での研究でこれまで様々な成果をあげており、引き続き国として支援する必要がある。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。			○		
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。			○		
事 業 の 効 率 性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。			—	当該国際機関は人件費を始めとする共通経費の削減等につとめている。	
	受益者との負担関係は妥当であるか。			—		
	単位当たりコストの水準は妥当か。			—		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。			○		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			○		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)			—		
事 業 の 有 効 性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。			○	平成24年度事業は活動実績及び成果目標共に見込みに見合ったものとなっている。当該事業で修復された設備等も十分に活用されている。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。			○		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。			○		
重 複 排 除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。 (役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)			—		
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点 検 結 果	我が国はTICADプロセスにおいてアフリカの農業開発(コメの生産倍増等)にコミットするほか、2008年の北海道洞爺湖サミット以来、他の先進諸国とともに世界の食料安全保障の実現にもコミットしているが、特に2011年のG20サミットや2012年のG8サミットにおいて食料安全保障における農業研究の重要性が強調されている。 様々に異なる開発途上国の自然条件に適応した品種改良や天然資源の管理や保全等の農業研究は、二国間援助の中で全て実施することは困難であり、豊富な遺伝資源やグローバルな知見を有するCGIARに対する支援を通じて実施する方が効率的・効果的である。 2009年以降、CGIARは組織・活動内容・活動の評価など、業務の見直しを行っているところであるが、これらの取組状況は理事会や総会において審議されており、我が国としても引き続き加盟国とともに参加して積極的な関与を図っていく必要がある。 事業内容については引き続き適切に把握し、事業が効果的に実施できるよう注視していく必要がある。					
外部有識者の所見						
行政事業レビュー推進チームの所見						
現 状 通 り	引き続き、予算の効率化や経費の節減の余地が無いか確認していく。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
現 状 通 り	-					
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	89	平成23年	98	平成24年	124